

授業科目 (科目ID)	人間発達学		担当教員 (実務経験)	高橋 義信 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内医科大学にて発達心理学の教育に28年間従事		
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	人間の身体や運動、認知がどのように発達するのか理解する。					
到達目標	新生児期から老年期までの各ライフステージの特徴とどのような問題に遭遇するかを理解し、問題を抱えた個人の援助の基礎を会得する。					
テキスト・ 参考図書等	リハビリテーション医学講座 第2巻 人間発達学					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験により評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の 留意事項	人間の身体や運動、認知がどのように発達するのかについて理解することは、人間理解の基本となり、対人援助職には必要不可欠な知識となる。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	人間発達とは	人間発達観の変遷と発達研究法			
	2	発達の一般原理	発達の方向性、臨界期、遺伝率			
	3	身体発達 I	身体各部の発達の特徴			
	4	身体発達 II	身体発達の評価法、身体発達に関与する因子			
	5	運動機能の発達 I	新生児、乳児期の運動発達の特徴			
	6	運動機能の発達 II	運動機能の発達に影響を及ぼす因子			
	7	感覚の発達	新生児の感覚能力			
	8	知覚の発達	パターン知覚、奥行き知覚、色の知覚の発達			
	9	言語の発達	二歳までの言語発達の道筋、言語障害の原因			
	10	知能の発達	知能検査、知能指数、知能に影響を与える因子			
	11	青年期 I	青年期の身体的変化			
	12	青年期 II	青年期の心理的变化と諸問題			
	13	成人期	成人期の身体的変化と成人期の諸問題			
	14	老年期	老化とは、老化に影響を与える因子、老年期の諸問題			
	15	まとめ				

授業科目 (科目ID)	病理学概論	担当教員 (実務経験)	中村 仁志夫 新潟大学脳研究所で7年間神経病理学研究に携わり、北海道大学医療短大などで25年以上教員として勤務		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	人体の細胞・組織に病的な変化がどのような原因によって生じ、どのような経過をたどって病態が形成され、どのような疾患として認識されるに至るか、すなわち病気のおこり方を科学的に理解すること、そして代表的な疾患の特徴、疾患概念を把握することを学習の目的とする。				
到達目標	代表的な疾患の特徴及びそれぞれの疾患概念を説明できる。				
テキスト・参考図書等	教科書:医療系学生のための病理学 第5版(講談社) 参考書:病気の地図帳(講談社)、遺伝子の地図帳(西村書店)、ルービン「カラー 基本病理学」(訳本)(西村書店)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	42%	毎回提出する講義カード(小課題の演習と理解内容の確認及び質問と回答)についての添削と評価の総計を70点(58%)、筆記試験の点数を50点(42%)とし、合計120点満点で72点(60%)以上を合格点とする。		
	レポート	0%			
	小テスト	0%			
	提出物	58%			
その他	0%				
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の板書の筆写のみに固執しないこと。教科書・参考書をよく読むこと。解剖学・生理学の知識を常に復習すること。 ・新聞や雑誌の医療関係の記事をよく読むこと。 ・ひとの話を「うのみ」にせず、自分で調べて、よく考えること。・基本的な細胞・臓器・病名などの医学用語を和名のみではなく英語名による習得に努めること。 ・毎回のカードは各自の努力によって作成し、友達のものを引き写す行為は厳禁とする。 				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	病理学の意義と役割	病理学とは、病理医と生検・剖検、内因と外因、病気の分類、先天性と後天性		
	2	遺伝子と染色体	細胞周期、染色体地図、遺伝子病と遺伝病、遺伝病の種類、染色体異常、奇形		
	3	組織傷害・変性過程	活性酸素の影響、変性と萎縮、壊死と枯死、成長と老化など		
	4	代謝障害・代謝異常	糖尿病、アミロイドーシス、メタボリックシンドローム、黄疸とは		
	5	修復と再生	創傷治癒と肉芽形成、肥大の種類、細胞の再生能力など		
	6	循環障害	貧血と虚血、外出血と内出血、充血とうっ血、チアノーゼとは、血栓(症)と塞栓(症)、側副血行とは、動脈硬化症、心・肺・肝と循環動態、心筋梗塞、脳梗塞、脳出血、ショックとは		
	7	炎症と感染症	急性炎症と慢性炎症、炎症の経過、化学伝介因子、感染の様式、自然抵抗性と獲得抵抗性(免疫)、日和見感染、パンデミックの歴史、院内感染など		
	8	免疫異常・アレルギー	細胞性免疫と体液性免疫、アレルギーの分類 自己免疫疾患		
	9	移植免疫と拒絶反応	組織適合性、MHCとHLA、拒絶反応とGVH反応、臓器移植の壁など		
	10	腫瘍の概念と分類	上皮性と非上皮性、分化度と悪性度、腫瘍素因、転移経路など		
	11	腫瘍の原因と診断・治療	がん遺伝子と癌抑制遺伝子、腫瘍マーカー、集学的治療、生検と剖検、組織診と細胞診、がんの予防・早期発見		
	12	心臓と肺の疾患	先天性心奇形、狭心症と心筋梗塞、肺炎と肺がん、気管支喘息、慢性肺気腫、石綿肺症など		
	13	消化器系、造血器系の疾患	食道・胃・腸の病気、血液疾患、白血病、悪性リンパ腫など		
	14	泌尿器系、生殖器系、運動器系の疾患	腎臓病、性感染症、子宮の疾患、骨の疾患		
15	内分泌系、皮膚・感覚器系の疾患	ホルモンの異常に伴う病気、眼の病気、耳の病気			

授業科目 (科目ID)	リハビリテーション総論		担当教員 (実務経験)	森泉 茂宏、他 整形外科・リハビリテーション科医師として大学病院、リハビリテーション病院等にて勤務。医科大学において臨床教員としても10年のキャリアを有する。		
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	リハビリテーション医学の概念と各障害に対するリハビリテーションおよび疾患別のリハビリテーションについて学ぶ。					
到達目標	包括的なリハビリテーション領域における作業療法士としての役割を理解する。					
テキスト・参考図書等	最新リハビリテーション医学 第2版 リハビリテーション総論					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験により評価。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	リハビリテーション領域全体の中での理学療法、作業療法の位置づけと役割を学びます。また、障害者の自立支援や就労支援における現状と課題、理学療法、作業療法の役割について学びます。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	リハビリテーションとは	リハビリテーションの定義と歴史、リハビリテーションの起源から地域包括ケアへ			
	2	障害の病態生理と評価	障害の分類と評価			
	3	チーム医療	リハビリテーション医療の特性			
	4	リハビリテーション治療	リハビリテーション評価と方法			
	5	理学療法と作業療法	各役割と特徴			
	6	疾患と機能障害①	脳血管障害			
	7	疾患と機能障害②	運動器疾患			
	8	疾患と機能障害③	変性疾患、神経・筋疾患			
	9	保健・医療・福祉の連携	リハビリテーション医療と地域包括ケア 障害者の自立支援と就労支援(障害者総合支援法と職業リハビリテーション)			
	10	リハビリテーション工学	リハビリテーション工学の成り立ちと現状			
	11	障害者心理と障害受容	障害の受容と障害への適応			
	12	身体障がい当事者からみたリハビリテーション	サービスの受け手である障がい当事者本人にとってのリハビリテーションの意味			
	13	リハビリテーションと理学療法	リハビリテーション医療における理学療法			
	14	リハビリテーションと作業療法	リハビリテーション医療における作業療法			
15	リハビリテーションと言語聴覚療法	リハビリテーション医療における言語聴覚療法				

授業科目 (科目ID)	リハビリテーション総論	担当教員 (実務経験)	目黒 文彦 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内医療機関にて作業療法士として14年勤務
対象年次・学期	1年・前期	担当教員	竹中 謙将
授業形態	講義	(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内の病院で10年、老人保健施設で7年、理学療法士として勤務
		担当教員 (実務経験)	山田 里見 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として6年勤務
		担当教員 (実務経験)	佐々木 勇輝 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内児童福祉施設にて言語聴覚士として6年勤務
		担当教員 (実務経験)	石野 洋祐 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内病院にて理学療法士として13年勤務
		担当教員 (実務経験)	今野 靖士 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 頸髄損傷当事者
		担当教員 (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員 (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員 (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員 (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>

授業科目 (科目ID)	作業療法概論 23o116	担当教員 (実務経験)	目黒 文彦 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内医療機関にて作業療法士として14年勤務		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必須	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	皆さんがこれからなろうとしている作業療法士について知ると共に作業療法について学びます。授業を通して、将来、作業療法士になるために必要な基礎的知識の獲得を目指します。				
到達目標	作業療法に必要な基礎的知識を習得する。作業療法の対象分野・対象者、その目的や目指すところを理解し、説明できるようになる。				
テキスト・参考図書等	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業療法学概論				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	前・後期定期試験		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	将来、作業療法士になる上で土台となる重要な科目です。積極的に参加してください。教員自己紹介や施設見学については提出課題があります。期限内の提出を確実に出来るよう、課題には計画的に取り組むようにしてください。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	科目の説明、教員・学生自己紹介		
	2	作業療法と私①～⑦	作業療法学科各教員の作業療法との出会いと現在までの経験から作業療法の分野の広さと考え方を知る。		
	3	作業療法と私①～⑦	作業療法学科各教員の作業療法との出会いと現在までの経験から作業療法の分野の広さと考え方を知る。		
	4	作業療法と私①～⑦	作業療法学科各教員の作業療法との出会いと現在までの経験から作業療法の分野の広さと考え方を知る。		
	5	作業療法と私①～⑦	作業療法学科各教員の作業療法との出会いと現在までの経験から作業療法の分野の広さと考え方を知る。		
	6	作業療法と私①～⑦	作業療法学科各教員の作業療法との出会いと現在までの経験から作業療法の分野の広さと考え方を知る。		
	7	作業療法と私①～⑦	作業療法学科各教員の作業療法との出会いと現在までの経験から作業療法の分野の広さと考え方を知る。		
	8	作業療法と私①～⑦	作業療法学科各教員の作業療法との出会いと現在までの経験から作業療法の分野の広さと考え方を知る。		
	9	作業療法とは何か	作業療法の定義や作業療法の対象、臨床分野など作業療法や作業療法士に関する基本的な事柄を知る。		
	10	作業療法とは何か	作業療法の定義や作業療法の対象、臨床分野など作業療法や作業療法士に関する基本的な事柄を知る。		
	11	障害構造と生活機能分類	ICIDH-2とICF		
	12	標本館見学	札幌医科大学標本館の見学		
	13	チームアプローチ	リハビリテーションを支える関連職種について学ぶ。		
	14	作業療法の歴史①	作業療法の始まり、世界・日本における作業療法の歴史を知る。		
15	作業療法の歴史②	作業療法の始まり、世界・日本における作業療法の歴史を知る。			

履修主題・履修内容	16	リハビリテーションがもつ意味	リハビリテーションとリハビリテーションの歴史について知る。
	17	医療・保健・福祉をささえる仕組みと作業療法の位置づけ	社会保障制度とそこに位置づけられる作業療法に対する理解を深める。
	18	当事者の視点から見たリハビリテーションと、未来のセラピストに望むこと	障がい当事者が体験してきた事、未来のセラピストへの期待を直接聞くことにより当事者本人の視点を持つことの重要性を学ぶ
	19	作業療法の臨床分野	各分野の施設見学に先立って、身体障がい、精神障がい、発達障がいの各分野で展開されている作業療法の特徴を知る。
	20	作業療法の臨床分野	各分野の施設見学に先立って、身体障がい、精神障がい、発達障がいの各分野で展開されている作業療法の特徴を知る。
	21	作業療法の臨床分野	各分野の施設見学に先立って、身体障がい、精神障がい、発達障がいの各分野で展開されている作業療法の特徴を知る。
	22	施設見学①	作業療法士が働く施設や臨床場面の見学、(①身体障害分野、②精神障害分野、③発達障害分野)
	23	施設見学①	作業療法士が働く施設や臨床場面の見学、(①身体障害分野、②精神障害分野、③発達障害分野)
	24	施設見学②	作業療法士が働く施設や臨床場面の見学、(①身体障害分野、②精神障害分野、③発達障害分野)
	25	施設見学②	作業療法士が働く施設や臨床場面の見学、(①身体障害分野、②精神障害分野、③発達障害分野)
	26	施設見学③	作業療法士が働く施設や臨床場面の見学、(①身体障害分野、②精神障害分野、③発達障害分野)
	27	施設見学③	作業療法士が働く施設や臨床場面の見学、(①身体障害分野、②精神障害分野、③発達障害分野)
	28	グループワーク	施設見学を元に各分野の作業療法についての知見をまとめると共に疑問点の解決をはかる
	29	グループワーク	施設見学を元に各分野の作業療法についての知見をまとめると共に疑問点の解決をはかる
30	作業療法の理論	作業療法の代表的な理論・モデルの概略を知る。	

授業科目 (科目ID)	作業療法概論 23o116	担当教員 (実務経験)	柿崎 貴浩 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内精神科デイケアに10年、精神科病院に1年、老健施設に1年勤務
対象年次・学期	1年・通年	担当教員 (実務経験)	和田 英峰 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として8年勤務
授業形態	講義	担当教員 (実務経験)	水尻 恵利伽 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内病院にて作業療法士として5年勤務
		担当教員 (実務経験)	小熊 真喜子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として勤務
		前・後期定期試験	担当教員 池田 保 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として10年勤務
		担当教員 (実務経験)	山田 里見 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として6年勤務
		担当教員 (実務経験)	実習指導者 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員 (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員 (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		(実務経験)	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>

授業科目 (科目ID)	基礎作業学		担当教員 (実務経験)	和田 英峰 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として勤務		
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	作業療法の基礎となる作業と人間の関係について理解を深める					
到達目標	①人間にとって作業はどんな意味があるか説明できる ②作業と作業療法の関係を説明できる ③作業の治療的応用について説明できる					
テキスト・ 参考図書等	山根寛:ひとと作業・作業活動 三輪書店 浅沼辰志:作業学(ゴールドマスターテキスト) メジカルビュー					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	90%	定期試験は、前期・後期の2回に分けて行う。 前期定期試験は100点満点・後期定期試験は80点満点+基礎点(提出物点)20点分を合計し、各期100点満点 合計200点の平均で評価する。 提出物点は提出物の提出状況及び内容により算定する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	10%				
その他	%					
履修上の 留意事項	提出課題を使って授業を展開することが多いので、期日までに作成し提出することを求める。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	序論	授業オリエンテーション・作業の定義			
	2	作業と生活(1)	作業の分類・生活と作業			
	3	作業と生活(2)	ライフスタイル分析(1)自分の生活を振り返る			
	4	作業と生活(3)	ライフスタイル分析(2)自分の目標に沿って生活の質を高める。(COPM体験)			
	5	作業と生活(4)	ライフサイクル分析(1) 各発達段階における生活の変化・課題の変化			
	6	作業と生活(5)	作業歴 相手の人生についての語りを聴く			
	7	作業と生活(6)	人間作業モデル 意志・習慣化・遂行・環境のサブシステム 作業遂行障害			
	8	作業と生活(7)	ライフサイクル分析(2)社会心理発達理論 作業の変遷			
	9	人間と作業(1)	脳と作業(1)脳の発達と作業の関係			
	10	人間と作業(2)	脳と作業(2)脳の発達と再生 脳のリハビリテーション			
	11	人間と作業(3)	手・からだ・こころと作業			
	12	人間と作業(4)	学習・コミュニケーションと作業			
	13	作業の治療的利用(1)	作業の知・作業のクオリア			
	14	作業の治療的利用(2)	作業の治療的利用・作業の技・技を育む(1)			
15	作業の治療的利用(3)	作業の治療的利用・作業の技・技を育む(2)				

授業科目 (科目ID)	基礎作業学実習 I	担当教員 (実務経験)	池田 保 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として10年勤務		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必須	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数(1回90分)	23	時間数	45時間
授業目的	・作業の工程を理解し、道具と材料を知る。、・自分の体験したことをもとに、包括的作業分析を行う。・作業分析を通じて、作業特徴の把握、必要な能力、治療的利用の方法と指導援助方法を検討する。				
到達目標	包括的作業分析ができる。作業の要素について比較ができる。				
テキスト・ 参考図書等	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト2 作業学、ひとと作業・作業活動				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	提出物による課題点とその他(作品点)にて評定する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	65%			
	その他	35%			
履修上の 留意事項	さまざまな作業体験をしながら、作業道具・作業工程・治療目的などを比較分析していく。提出期限を厳守すること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション・塗り絵	授業オリエンテーション・作業分析、簡易型分析表の書き方		
	2	レクリエーション(室内ゲーム)	レクリエーションオリエンテーション・ボードゲームの体験(個人/ペアによる対戦・協力)・分析表の作成		
	3	レクリエーション	4年生企画 合同レクの参加(小集団ゲーム体験)		
	4	レクリエーション	4年生企画 合同レクの参加(小集団ゲーム体験)		
	5	作業分析①	作業分析とは? 個人・ペア・小集団ゲームの比較		
	6	折り紙・教示法	折り紙オリエンテーション・おりがみ体験(構成的作業の体験)、折り図を読む・見本から作成する・工夫をする		
	7	折り紙・教示法	おりがみ体験(構成的作業の体験)、折り図を読む・見本から作成する・工夫をする・作業分析表		
	8	ちぎり絵	色紙絵作成(投影的作業の体験)		
	9	ちぎり絵	構成的作業と投影的作業の比較		
	10	ネット手芸	ネット手芸オリエンテーション・ミニカードケースづくり		
	11	ネット手芸	ミニカードケースづくり		
	12	ネット手芸	ミニカードケースづくり		
	13	ネット手芸	ミニカードケースづくり		
	14	ネット手芸	ミニカードケースづくり		
15	作業分析③	作業分析の歴史・包括的作業分析と限定的作業分析、包括的作業分析の記載方法			

履修主題・履修内容	16	七宝焼	七宝焼オリエンテーション ピンバッチ制作
	17	七宝焼	ピンバッチ制作
	18	籐細工	籐細工オリエンテーション・丸かご作り
	19	籐細工	丸かご作り
	20	籐細工	丸かご作り
	21	籐細工	丸かご作り
	22	裁縫	裁縫の特徴について実施及び分析
	23	振り返り	授業のまとめ・包括的作業分析から限定的作業分析へ

授業科目 (科目ID)	作業療法評価法 I		担当教員 (実務経験)	目黒 文彦 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として14年勤務	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必須	単位数 2単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	30	時間数 60時間
授業目的	作業療法における「評価」の重要性を理解する。				
到達目標	評価技法の基本を習得し、対象者理解の基礎を身につける。				
テキスト・ 参考図書等	標準作業療法学 作業療法評価学、新・徒手筋力検査法 第9版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	筆記試験と実技試験の得点を合算して最終成績とする。 筆記試験は、100点満点中60点以上を合格とし、本試験で60点に満たないものは再試験にて60点以上を合格とする。 実技試験についても100点満点中60点以上を合格とし、本試験で60点に満たない場合は再試験を受験し、60点以上で合格とする。 筆記試験・実技試験共に合格に達しない場合は、本試験の得点をもって最終成績とする。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
実技試験	30%				
履修上の 留意事項	実技を多く含む科目です。基礎的な項目とはいえ、実技試験も実施されますので、授業後の復習、反復実技練習は必要になります。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	評価法概論	オリエンテーション。評価とは何かを理解する		
	2	評価法概論	作業療法評価結果の記録方法、SOAPの使い方を知る		
	3	バイタルサイン①	バイタルサインとは何かを理解する		
	4	バイタルサイン②	バイタルサインの評価技術を学び、脈拍測定の意味合いを理解する		
	5	バイタルサイン③	バイタルサインの評価技術を学び、脈拍測定の実施が可能になる		
	6	バイタルサイン④	バイタルサインの評価技術を学び、血圧の実施が可能になる		
	7	バイタルサイン⑤	バイタルサインの評価技術を学び、血圧の実施が可能になる		
	8	バイタルサイン⑥	意識状態の評価基準を理解する		
	9	バイタルサイン⑦	バイタルサインとリスク管理の関連性を理解する		
	10	バイタルサイン⑧	バイタルサインの臨床上の活用事例を学ぶ		
	11	面接・作業面接	面接の種類・接近と挨拶、パーソナルスペースについて理解する		
	12	作業面接	構成的面接練習、面接の導入と情報収集面接、作業を介した面接を理解する。		
	13	作業面接・作業観察	子ども・車椅子患者と面接する場面での注意点と方法を理解する。 観察の種類を理解する。		
	14	作業面接・作業観察	車いす利用者との情報収集面接の流れ(実習前実技試験課題を中心に)		
15	作業観察	観察の種類 観察における評価の特徴 観察の記録			

履修主題・履修内容	16	作業観察	第一印象の捉え方・まとめ方を理解する。
	17	関節可動域測定(ROM-T)	関節可動域測定の目的を理解する。
	18	関節可動域測定(ROM-T)上肢①	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
	19	関節可動域測定(ROM-T)上肢②	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
	20	関節可動域測定(ROM-T)上肢③	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
	21	関節可動域測定(ROM-T)上肢④	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
	22	関節可動域測定(ROM-T)上肢⑤	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
	23	関節可動域測定(ROM-T)下肢①	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
	24	関節可動域測定(ROM-T)下肢②	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
	25	関節可動域測定(ROM-T)下肢③	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
	26	関節可動域測定(ROM-T)下肢④	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
	27	関節可動域測定(ROM-T)下肢⑤	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
	28	関節可動域測定(ROM-T)総まとめ	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
	29	徒手筋力検査(MMT)	筋力や筋持久力とは何か知り、検査の目的を理解する。 徒手筋力検査法の基礎を習得する。
30	徒手筋力検査(MMT)上肢	徒手筋力検査の基本的な測定技術を習得する。	

授業科目 (科目ID)	身体障害作業治療学 I		担当教員 (実務経験)	水尻 恵利伽 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内病院・介護保険施設にて作業療法士として5年勤務		
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必須	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	身体障害領域における各種疾患を理解する。その中で、特に脳血管障害について、定義、原因、分類などを学ぶ。それらに対する作業療法の基礎について学び、臨床実践に役立てることができる。					
到達目標	身体障害領域における各種疾患の基礎を学び、病態や症状を説明出来る。 脳血管障害について、原因や分類、運動麻痺について説明出来る。					
テキスト・参考図書等	病気が見える Vol. 7 脳・神経 第2版、作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト身体障害作業療法学(改訂第2版)					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	筆記試験において、100点満点中60点以上を合格とし、本試験で60点に満たないものは再試験にて60点以上を合格とする。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	身体障がい分野の作業療法の中で主要な疾患・障がいである脳卒中による片麻痺を中心に講義を行います。この科目の内容は2年生の身体障害作業治療学IIに繋がりますので、積み残しのないようにしっかりと勉強してください。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション	授業の進め方、身体障がい領域における作業療法の概観を理解する。			
	2	大脳皮質と機能領域	大脳皮質の機能領域について理解する。			
	3	脳と運動	脳と運動の関係性について理解する。			
	4	脳卒中とは①	脳卒中(脳出血)の病態について理解する。			
	5	脳卒中とは②	脳卒中(脳梗塞)の病態について理解する。			
	6	脳卒中の障害理解①	脳卒中特有の運動麻痺について理解する。			
	7	脳卒中の障害理解②	脳卒中特有の運動麻痺について理解する。			
	8	脳卒中の障害理解③	脳卒中特有の感覚障害・腱反射異常について理解する。			
	9	脳卒中の障害理解④	脳卒中特有の筋緊張異常について理解する。			
	10	身体障がい疾患論①	パーキンソン病の病態・症状について理解する。			
	11	身体障がい疾患論②	脊髄小脳領域変性症の病態・症状について理解する。			
	12	身体障がい疾患論③	多発性硬化症の病態・症状について理解する。			
	13	身体障がい疾患論④	脊髄損傷の病態・症状について理解する。			
	14	身体障がい疾患論⑤	上肢の骨折の病態・症状について理解する。			
	15	身体障がい疾患論⑥	廃用症候群の病態・症状について理解する。			

授業科目 (科目ID)	精神障害作業治療学 I		担当教員 (実務経験)	小熊 真喜子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として勤務	
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	①精神科作業療法の対象者について知る。②精神障がい者に対する作業療法の意義と役割を知る。③精神障がい者や精神科医療についての歴史の概要をつかむ。				
到達目標	精神障害者に関する歴史的背景と現状の課題を理解する。				
テキスト・参考図書等	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト精神障害作業療法学、 標準理学療法学作業療法学 精神医学 第4版 増補版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	75%	後期定期試験、提出物(授業のまとめ)、単元テスト		
	レポート	%			
	小テスト(単元テスト)	10%			
	提出物	15%			
その他	%				
履修上の留意事項	各授業で配布する提出課題である「授業のまとめ」は授業終了時に提出すること。予習・復習に活用できる。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業予定(シラバス)と講義内容のオリエンテーション、・精神障害者に対するイメージ		
	2	精神科医療サービスの基本的流れ	受診・外来治療と入院治療・地域での支援		
	3	精神医療保健福祉の歴史(1)海外	精神障がい者とその支援者・様々な治療の歴史		
	4	精神医療保健福祉の歴史(2)日本	日本における精神医療保健福祉の歴史 法律の変遷		
	5	精神症状と精神疾患	精神症状・障害の理解(陽性症状、陰性症状)、入院治療と外来治療・地域支援		
	6	まとめ(1)精神科作業療法概論(1)	単元テスト(1) 精神科分野の作業療法士の業務・1日の流れ		
	7	精神科サービスの種類と特徴(1)医療・保健分野	各種医療・保健サービスと作業療法士の役割		
	8	精神科サービスの種類と特徴(2)福祉・職業分野	各種福祉・職業サービスと作業療法士の役割		
	9	精神科作業療法概論(2)	回復過程に応じた援助(統合失調症を例に)		
	10	精神科作業療法概論(3)	精神科作業療法の流れ①(事例を通じて)		
	11	精神科作業療法概論(4)	精神科作業療法の流れ②(グループワーク)		
	12	精神科作業療法の治療構造・構成要素(1)	治療的自己の応用～作業の利用		
	13	精神科作業療法の治療構造・構成要素(2)	集団・場所と場・時間と頻度の利用		
	14	精神科治療論・モデル・技法(1)	精神分析理論～発達理論		
15	精神科治療論・モデル・技法(2)・まとめ(2)	集団発達理論～環境調整的アプローチ・単元テスト(2)			

授業科目 (科目ID)	発達障害作業治療学 I		担当教員 (実務経験)	水尻 恵利伽 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内病院、介護保険施設にて作業療法士として5年勤務		
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	発達障害分野作業療法の対象・役割・援助方法について理解できる。正常発達の大まかな流れを捉えることができる。					
到達目標	発達障害作業療法の概要を説明できる。正常発達理論を列挙できる。0ヶ月～12か月までの運動発達を説明できる。					
テキスト・ 参考図書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 発達過程作業療法学第3版					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	筆記試験において、100点満点中60点以上を合格とし、本試験で60点に満たないものは再試験にて60点以上を合格とする。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の 留意事項	人間発達学の内容を復習しながら取り組むこと。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション・総論(1)	授業オリエンテーション 子どもと保護者を支援する			
	2	総論(2)	発達障害の種類と概要			
	3	総論(3)	発達を捉える視点・正常発達を学ぶ意義			
	4	原始反射と姿勢反射(1)	原始反射の種類(脊髄～延髄レベル)			
	5	原始反射と姿勢反射(2)	姿勢反射の種類(中脳～皮質レベル)・ボイタによる姿勢反射			
	6	まとめ・乳児期の発達 粗大運動発達(1)	小テスト(1) 0～12か月の発達の概要			
	7	粗大運動発達(2)	背臥位の発達			
	8	粗大運動発達(3)	腹臥位の発達			
	9	粗大運動発達(4)	座位の発達			
	10	粗大運動発達(5)	立位の発達			
	11	まとめ・微細運動発達	小テスト(2) 巧緻運動の発達			
	12	子どもをとらえるための発達理論	主な発達理論(フロイト・エリクソン・ピアジェ・モゼイ・マーズロー他)			
	13	幼児期の運動発達	幼児期の移動運動・手の運動の発達(遠城寺式乳幼児分析的発達検査表をもとに)			
	14	乳・幼児期の社会性の発達	乳・幼児期の基本的習慣・対人関係の発達(遠城寺式乳幼児分析的発達検査表をもとに)			
15	乳・幼児期の言葉の発達・まとめ	乳・幼児期の発語・言葉の理解の発達(遠城寺式乳幼児分析的発達検査表をもとに) 小テスト(3)				

授業科目 (科目ID)	日常生活活動	担当教員 (実務経験)	和田英峰 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内医療機関にて作業療法士として8年勤務		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	作業療法にとって大きな柱である日常生活活動とは何かを学ぶ。また、基本的な動作の介助方法を習得するとともに、障がい体験をとおして障がいを持つ方の日常生活を体験し、評価・介入方法を学ぶ。				
到達目標	基本的な動作の介助方法を習得する。障がい者の日常生活の評価・介入を理解する。				
テキスト・参考図書等	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト日常生活活動学(ADL)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	筆記試験において、100点満点中60点以上を合格とし、本試験で60点に満たないものは再試験にて60点以上を合格とする。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	%				
履修上の留意事項	作業療法は対象者の日常生活に多く関わる職業です。この科目は日常生活の基礎を学びますので、積極的に学習してください。実技の際は動きやすい服装で授業に臨んでください。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	人にとっての日常生活とは何か。ADLとOTの関係。		
	2	ADL・IADLなど	広義・狭義のADL IADLについて知る。		
	3	できるADL・しているADL	できるADL・しているADLを理解する。		
	4	QOL	QOLについて知る。		
	5	ADL評価	評価の目的と具体的な評価方法について理解する。		
	6	基本動作と姿勢①	ADLの基盤となる基本的な姿勢や動作を知る。		
	7	基本動作と姿勢②	人の発達と基本動作について理解する。		
	8	介助方法・基本動作①	寝返り動作の介助方法や指導方法について実技を交え体験する。		
	9	介助方法・基本動作②	起き上がり動作の介助方法や指導方法について実技を交え体験する。		
	10	介助方法・基本動作③	立ち上がり動作の介助方法や指導方法について実技を交え体験する。		
	11	介助方法・基本動作④	移乗動作の介助方法や指導方法について実技を交え体験する。		
	12	介助方法・基本動作⑤	車いすや杖、補装具について学ぶ。		
	13	ADLへの介入手段①	ADL遂行能力を向上させるための考え方と方法の概略を知る(治療的アプローチと代償的アプローチ)。		
	14	ADLへの介入手段②	ADL遂行能力向上に用いる自助具、福祉用具を知る。		
15	まとめ	この科目を振り返り、重要事項の再確認を行う。			

授業科目 (科目ID)	臨床見学実習	担当教員 (実務経験)	池田 保 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として10年勤務		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必須	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数(1回90分)	23	時間数	45時間
授業目的	臨床実習における一連の作業療法を見学・観察し、作業療法及び作業療法士を果たす役割を学ぶ。作業療法士としての心構え、医療専門職としての自覚を形成する。				
到達目標	作業療法部門、作業療法士の役割、関連職種との役割・業務、施設の機構及び業務について理解する。				
テキスト・参考図書等	特に指定なし				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	臨床実習指導者の評価と作業療法学科教員の評価を合わせて総合的に評価する		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	100%			
履修上の留意事項	実際の作業療法士の業務を見学し、今後の学習へのモチベーションへとつなげるとともに、実習を通して自己の学習課題を明確にしてください。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
		実習前セミナー	見学実習に必要な知識・技術の再確認と演習		
	1	実習前評価	実習前実技試験にて、直接患者に接するに当たり、総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを確認する。		
	2~22	臨床実習	臨床実習施設において、臨床実習指導者の指導の下、実習を行う		
			①積極的に実習に参加する		
			②病院見学を通して、病院・施設の機構と業務について学ぶ		
			③作業療法場面及び、各種関連サービス場面を見学する中で、チーム医療における作業療法の役割を学ぶ		
			④観察及びコミュニケーションを通じて、作業療法の対象者について学ぶ		
			⑤記録・報告について学ぶ		
			⑥作業療法士としての心構えを持ち、職業人としてのルールやマナーを守る。		
			⑥作業療法士としての心構えを持ち、職業人としてのルールやマナーを守る。		
	23	実習後評価	実習における教育成果の判定にはサマリー発表の内容や提出物について確認し、実習指導者評価を基に総合的に判定する。		
		実習報告セミナー	実習での体験、得られた知識・技術等の総括を、発表会を通して行う		